



QFN通信

Qshu Forest Network News

NPO法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤宣子

新しい芽吹きが一斉に始まる季節になりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

QFN通信第9号をお届けします。本号では、第10回フォーラムの報告と感想、新理事の紹介、福岡久山町で開催する第11回九州森林フォーラムの案内を記載しています。

昨年8月にお届けした前号の巻頭言を読むと、ユーロ高、資源不足、ヨーロッパでの立木価格の上昇といった状況について言及しています。その後、ご存じのとおりアメリカ発の金融問題が発端になって、世界中を不況の波が襲っています。原油をはじめ資源の価格上昇もまっとうな需給関係を反映したのではなく、多くは投機マネーによるものだったことが明らかになりました。

最近目にした林野庁の新事業資料を読んでいたところ、今後1m³当たり100USDという「国際価格」を前提として、A、B、C材トータルでこの国際価格で競争できるような低コストの育林、伐出技術を開発するという文章がありました。今のうちに、90円台まで円が上がると、1万円を割り込みます。為替相場で価格が大きく左右され、長期間を要する林業は計画が立ちません。更に問題なのは、直材のA材と曲がりなどのB,C材とを込み込みでいくらかと提示することは、林業家や技術者の施業方法改良の努力を評価せず、誇りを傷つけることになることです。

持続的な森林経営を確立するためには、グローバリゼーションに翻弄されないような、地域で経済的に支える仕組みが必要です。その1つとして最近、注目されているのが森林の炭素吸収量を活用したカーボンオフセットの取組です。第11回九州森林フォーラムでは、この取組と考え方を学ぶことを目的として開催します。

ご参加の程、宜しくお願い致します。



ネットワークキャラクター
「やまと熱人(ネット)」

第9号 since2005.6.1

発行日 2009. 4. 1

<発行>
NPO九州森林ネットワーク
本部：熊本県小国町
<編集責任>
宮崎・諸塚オフィス
<担当オフィス>



目次

第10回九州森林フォーラムの報告	2～3
ネットワーク新理事の紹介	4～5
第11回九州森林フォーラムお知らせ	6

第10回九州森林フォーラムの報告 平成20年10月3日～4日 子供たちに豊かな森林を引き継ぐために～九州の人工林施業を見直そう～

「九州での非皆伐施業はできないか」「皆伐の水土保全機能低下を最小限にする工夫や早期回復させるための施業技術は」「植林や下刈りの省力化手法は」「天然林に誘導すべき人工林の管理とは」など、経済と環境を調和させるために、地域の実情に合わせた施業システムについて議論しました。

第 1 部 10月3日（金）

■現地見学会

小国町での間伐搬出現場および小国ウッディ協同組合の製材現場見学、250年生スギ山林の見学のほか、有名な「鍋ヶ滝」も見学しました。



第 2 部 10月4日（土）

会 場：小国町情報企画センター（阿蘇農協小国郷中央支所）

- 基調講演① 藤森隆郎氏 10:15～11:15
「持続可能な森林の管理に向けた人工林施業のありかた」
- 質 疑 11:15～11:20
- 基調講演② 湯浅勲氏 11:25～12:25
「日吉町の森づくりと人材育成ビジョン」



■ パネルディスカッション

佐藤九州森林ネットワーク理事長のコーディネートで、パネリストは築瀬和彦氏（小国町森林組合）、諫山克彦氏（日田市森林組合）、黒田仁志氏（ひむか維森の会）、藤川靖治氏（トライ・ウッド）、合原万貴氏（マルマタ林業）のメンバーで行いました。

参加者	見学会参加者	38名
	交流会参加者	53名
	フォーラム参加者	130名



■ 参加者からのコメント～

- 川上と川下がつながることが必要だというのは、皆の共通認識だと思います。
具体的な策について、議論の手前でフォーラムが終わるのが、残念です。
- 何故見直さないといけないのか？過去の先人達の取り組みを否定して良いのか？
日田、津江、小国は歴史ある人工林が多いが一概に悪いこととは言えないのではないかと。手入れの行き届いた人工林が多いため、天然水を使った企業が多く有る。
全国各一的な施業の推進は望ましくない。地域地域の特長をいかした施業を行うべきではないか。
- 基調講演から事例報告、パネルディスカッションまでと単伐期施業から長伐期施業、大規模流通から木の文化・産直と幅広くポイントの絞れた議論でとても良かった。
- 今、ホットなお二人をよく口説かれた。講演はすばらしかった。
- 森林生態、森林管理、木材生産に渡る幅広いお話が聞けて、大変良かったと思います。

新理事紹介

昨年10月の総会で、新しい理事が就任することが承認されました。今回は紙面を借りて各理事の自己紹介を掲載します。

①新事務局長 穴井 徹（熊本県小国町役場）

現在、森林＝環境というイメージをお持ちの方も多いと思われませんが、私自身は代々林業を生業とする家庭で育ち、山村で生活しております。本ネットワークに山側の一員として参加し、多くの方々と出会い見聞を広めていきたいと思っております。

また今回、事務局長という仕事を任され、未だ大きな不安を抱えたまま現在に至っております。不慣れではございますが、佐藤理事長をはじめ各理事・会員のみなさま方の、ご指導ご協力のほど、よろしく願いいたします。

②新理事 小森耕太（福岡県黒木町 山村塾）

皆さんこんにちは。山村塾の小森耕太です。福岡市内で生まれ育ち、大学卒業と同時に農林業の町、福岡県黒木町に移り住んで、今年で10周年を迎えます。山村塾では、都会の人たちを巻き込み、都市と農山村が一緒になって農山村の自然環境を守ることを目指しています。

九州森林ネットワークの活動を通じ、いろいろな方々と連携し、個々の取り組みの枠を超えたことに挑戦できることを期待しています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

③新理事 重松正幸（福岡市 構造FACTORY）

新理事の重松です。建築構造設計を専門とする建築士で、福岡市で設計事務所を営んでいます。同じく建築構造設計に従事する前理事(現顧問)の川崎さんよりバトンを引き継ぎました。

構造設計という仕事を通して、加工された木材とは多く接してきましたが、実際に山に入り、伐採や乾燥そして製材といった加工木材に至るまでの過程に接する機会も多くなり、「木を知る」事にも積極的に活動してきています。

環境問題の中で森林と建築の在り方を考えたとき、木材を建築物に使う事でCO2を削減(固定)する効果がある事を知り、益々、木や森林に魅力を感じています。

新たな知識を身につけながら、川下で木を利用する側としての意見を出していきたいと思っております。

まだまだ勉強不足の部分もありますが、どうぞよろしくお願い致します。

④新理事 吉弘拓生 (福岡県うきは市)

今回、ご縁があって理事という大変な重役を担うこととなり、期待と不安、希望に満ち溢れております。これも日頃よりご支援いただいている皆様のお陰であると感謝申し上げます。

私は、うきは市にて森林の新たな活用方法として「森林セラピー推進事業」を実践しております。「森林セラピー」とは、森林の持つ癒し効果を科学的に実証し、森林療法や地域の活性化のツールとして活用する事業で、うきは市では「観光」「教育」「医療」「福祉」としての価値ある森林づくりの一環としてプロジェクトを推進しております。

森林には無限の可能性が 있습니다。この可能性を“実現”するのも“夢のまま”にするのも私たちの人間次第であると考えます。「新たな活用」等々言葉で言うのは簡単ですが、実際に活動してある方は少なく、やはり現場で経験を積み、地域のことを知りつくした人材がキーパーソンとなる事業です。

「人材」を「人財」という近年、夢を持ち、実践していく若者がこのネットワークを活用し1人でも多く増えればと思います。未熟者ではありますが、情熱と実行力で皆様のお役にたてればと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

⑤新理事 山村公人 (福岡市 カーボンオフセット九州)

「地球は将来世代からの預かりもの」という話を聞いたことがあります。化石燃料の恩恵により一昔前では考えられない程の便利な生活を謳歌している現世代の自覚と実行で、将来の地球環境は大きく左右されると思います。二酸化炭素を吸ってくれる森林を保全すること、化石燃料の使用を抑え、再生可能エネルギー活用や省エネを行う事は、将来世代への責任だと思ひます。気候変動が現実問題となった今国内外で環境関連の法整備や「カーボンオフセット」という自主的な取り組みが始まっています。私はコンプライアンス対応・カーボンオフセット対応など、主に企業が行う環境活動をサポートしております。宜しくお願い申し上げます。



★第11回森林フォーラム in 久山町のお知らせ★



■日 程：平成21年4月24日（金）～25日（土）

■会 場：福岡県久山町 レスポアール久山

■テーマ：「森づくりによる低炭素社会づくりに向けて」

～日常生活で排出したCO2をオフセットして、環境意識を高めよう～
昨年から京都議定書の第一約束期間が始まり、日本にとって、温暖化問題への対応は緊急の課題となっています。しかしながら現段階の国内CO2排出量は増加しています。最近、その解決方法のひとつとして、カーボンオフセット（carbon offset）が注目されています。それは、人間の経済活動や生活などを通して「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称です。国内において、自己で排出したCO2を、森林管理によって吸収・固定する仕組みに対して、国の指針による積極的な取り組みが動きだしました。木材価格の暴落によって森林の資金循環が滞り、放棄された森林が急増するなど危機的な状況に陥る森を、この新たなスキームが救えるのか、注目されています。

新たな節目となる11回目の九州森林フォーラムは、新たな取り組みとして、カーボンオフセットの仕組みを活用しながら、将来の低炭素社会づくりに向けた森づくりはどのようになるべきかについて、全国の先進的事例を紹介し、具体的な議論を行い、九州における森づくりの将来像とカーボンオフセットの仕組みの活用についての勉強会です。

■主 催：NPO 法人 九州森林ネットワーク ■共 催：福岡県久山町

■後 援：福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、うきは市、小国町、小国町森林組合、耳川広域森林組合ほか（すべて予定）

■参加費：フォーラム1,000円（会員無料）

■プログラム 24日（金）14時50分 久山町役場集合

「久山町でのトレサビリティ事業」（久山町森林組合 今任啓一氏）

18時 交流会（場所未定 会費4,000円）

25日（土）10時 九州森林フォーラム

基調講演「カーボンオフセットによる森林再生の可能性について」

講師：日本大学大学院法務研究科教授 小林紀之氏

パネルディスカッション

「先進地による事業の効果と課題」コーディネーター 三浦逸郎氏

水谷伸吉氏（more trees事務局長）春日隆司氏（北海道下川町）ほか

■問合先 NPO九州森林ネットワーク事務局（小国町森林組合内）

Tel0967-46-2411 FAX0967-46-5474

または福岡県久山町田園都市課 Tel098-976-1111